

誰もが楽しく快適な旅を

段差や通路幅など調査

霧島のNPO県内に「UT」支援の動き

高齢者や障害者ら誰もが安心して楽しめる旅「ユニバーサルツーリズム」(UT)を広げる取り組みが県内で進んでいる。霧島のNPO法人は指宿市からの依頼を受け、観光施設の段差やトイレの使いやすさなどの調査に着手した。県観光連盟は11月、観光業者や自治体関係者らを対象としたセミナーを開き、UTに対応した観光地づくりを提案する。

(山田伸彦)

「机の高さがちょうど良 すね。広いスペースなので、ゆったりと食事できま 動きやすい」



指宿市の飲食店で机の高さを調べる喜井さん(左)ら

15日、そうめん流しが楽しめる指宿市の飲食店。霧島市を拠点に活動するNPO法人「eワークス鹿児島」の理事で、自らも車椅子を使っている喜井郁子さん(60)らは、食事をする場所や通路の幅、トイレの使いやすさなどをチェックしていた。

同NPOはこれまでも観光・宿泊施設や飲食店の段差などを調査し、ホームページで情報発信してきた。観光客や旅行会社からの相談を受け、高齢者向けの旅行プランを提案したり、介助者の紹介を行ったりしている。

指宿で障害者らのモニターツアー計画

こうした取り組みに目を付けた観光地・指宿市は、UT支援を充実させたいと、同NPOに協力を依頼。9〜10月の予定で、旅館や飲食店など約30か所を調査してもらっている。

市はこのほか、障害者らが市内の観光地を巡るモニターツアーを計画中で、参加者から寄せられた意見を、設備の改善や関係者の意識向上に生かす方針だ。

一方、県観光連盟は11月7日に鹿児島市で、同20日に奄美市で、それぞれUT推進のセミナーを開催する。2011年の九州新幹線の全線開業から3年半。「鹿児島島の観光は大きく伸びた反面、おもてなしの低下が指摘されている」とも開催の背景にあるという。

観光連盟の担当者は「鹿児島がUT支援に積極的な観光地として定着すれば、より多くの人たちに快適な旅を楽しんでもらえる上、観光振興にもつながる」と期待する。

同NPOの紙屋久美子理事長(46)も「楽しめる場所が確保されているのは、障害者や高齢者にとって喜ばしいこと。利用者だけでなく、観光関係者も含めて双方のメリットになる」と説明。「介助者や輸送手段の不足など課題も多いが、支援の輪を広げて、一つずつクリアしていくことが重要だ」と指摘している。

ユニバーサルツーリズム 誰でも利用できるという意味のユニバーサルデザインと、旅行・観光を意味するツーリズムを合わせた言葉。年齢や障害の有無などにかかわらず、工夫された移動手段や宿泊先を利用し、誰もが楽しめる旅行のことを指す。日本では2000年代に入って広がった。妊婦や子ども連れなど「全ての人」が対象で、観光庁や旅行会社の多くは、主に高齢者や障害者を対象とする「バリアフリー旅行」と区別している。